

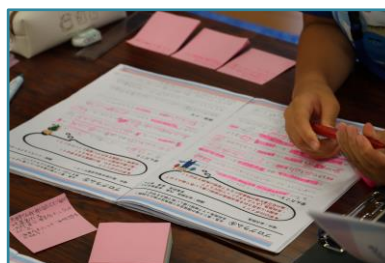
2024年度 実施概要

事業9年目を迎える本年度は、これまで培った、自治体、地域、団体、推進パートナーを繋ぐ取り組みに注力。単での取り組みにだけでなく、連携の輪を広げ、海への無関心層も取り込む施策を実施。エリア事業、CFB事業、そして自主事業である「大村湾ワンダーバイプロジェクト」の3つの事業を密に連携し、県民の海に関する理解を深め、人と海との距離を縮めてきた。特に次世代を担う子供たちの参加に力を入れ、実際に長崎の海に触れて体験できるイベントを実施。参加した児童の意識向上が見られ、良い変化を実感できるようになった。

オリジナル体験学習イベント

2つの海に違いはあるのか？探しに行こう！五島・東シナ海vs大村湾調査隊2024！

広大な大陸棚を有する東シナ海と、世界的にも珍しい二重の閉鎖性海域の大村湾という対極ともいえる2つの海に焦点を当て、様々な体験や講義を通して2つの海の違いや共通点などを比較・調査し、課題解決について考えようと、8月1日～3日に五島市、大村市、時津町をフィールドとして実施。応募者は広報の見直しにより昨年度より応募エリア・人数ともに増加し、153名となった。イベントでは1日目に洋上風力発電はえんかぜの見学、水中ドローンを使用した海中観察、郷土料理体験などを通して学習。2日目はシュノーケリング体験や海水の科学実験などを通し、海の生き物を守る大切さや2つの海の水質の現状と改善のための取り組みについて考えた。これらの学びを3日目にまとめあげ、「2つの海の現状と未来」として発表。学びの成果の拡散施策として金沢鮮魚と連携し、ECサイト等を通じて12月からオリジナル「魚醬つゆ」を販売予定。



WEB運営

24年11月時点で
ニュースサイトPV数 55,650PV、
ニュース記事数 69記事達成。
その他、自主的なSNS運営としてX
(旧Twitter)を運営し、情報発信に
努めた。

海の取材動画

県内想定視聴者
約10万人に向け、県内の多様な海で起
こっている課題に関するニュースや教育機
関等が進める海の技術革新の活動を計
17本放送。取材エリアを離島まで広げ
ることで、海洋従事者らとのネットワークを広
げた。(24年11月時点)

プロジェクト訴求動画

プロジェクト本体の
山場に合わせた連携広報として、海ごみ
ゼロウィーク訴求動画、海とごちそうウィ
ーク訴求動画、海と灯台ウィーク訴求動画
を各15秒計200本放送。(24年11月
時点)

これまでの課題と今後の展望

課題1

海洋県でありながら、海に関する情報を知る
きっかけに恵まれていなかった県民への周知

課題2

義務教育課程での海洋問題に
ついての学習機会が少ない

課題3

長崎の海の環境変化とそれに応じた
最新の海洋DXの周知



地元人気イベントとコラボした体験型
イベントの実施。無関心層の更なる
取り込みを目指す。



教育委員会および民間企業と連携した
体験型出前授業の実施。



最新の海洋技術を体験できるイベントの
実施およびSNS・HP・番組を横断して
の展開